

高崎市文化財調査報告書第 360 集

# 下和田遺跡

—高崎市新体育館建設事業に伴う発掘調査報告書—

2 0 1 6

高崎市教育委員会

## 序

平成23年4月1日に中核都市へと移行した高崎市は、大都市として発展しています。

本書は、高崎市新体育館建設に伴う発掘調査報告書です。近年の発掘調査の成果により、本遺跡を含む高崎駅周辺一帯には平安時代の水田跡が広がっていることが明らかとなってまいりました。本遺跡でも水田に伴う畔などが見つかっており、古代の人々が農作業にいそしんでいる息吹が感じられます。

最後に、本報告書の発掘調査ならびに報告書作成に多大なるご協力をいただいた地元の皆様、関係機関、各諸氏の方々に厚くお礼申し上げます。本書を通して高崎市の多様な歴史を知る一助となれば幸いと存じます。

平成28年3月

高崎市教育委員会

教育長 飯野眞幸



## 例 言

1. 本書は、高崎市新体育館建設に伴い実施した「下和田遺跡」の発掘調査報告書である。
2. 本遺跡は、高崎市下和田町四丁目2番1他に所在する。
3. 本遺跡には、高崎市遺跡番号592を付し、略称として図面管理や遺物注記に使用している。
4. 発掘調査および整理作業は、高崎市教育委員会事務局教育部文化財保護課埋蔵文化財担当が行った。調査組織は、以下のとおりである。

平成26年度

- ・ 飯野眞幸（教育長）上原正男（部長）松本伸（課長）
- ・ 事務局（文化財保護課）  
田口一郎（課長補佐兼係長）針井修（主査）加藤志津代（主任主事）
- ・ 調査担当  
黒田晃（主査）矢島浩（主査）

平成27年度

- ・ 飯野眞幸（教育長）上原正男（部長）若狭徹（課長）
- ・ 事務局（文化財保護課）  
角田真也（係長）針井修（主査）加藤志津代（主任主事）
- ・ 整理担当  
黒田晃（主査）矢島浩（主査）

5. 遺構の写真撮影は黒田が行った。

## 凡 例

1. 本書で使用した地図は、国土地理院発行1/25000地形図（高崎）である。
2. 本書の座標値は世界測地系であり、方位は上記の座標北である。
3. 本書中の図版縮尺は各図に表示した。
4. 断面図に付した標高はT.Pを基準とした。
5. 土層・遺物の色調および土壌の注記は、農水省農林水産技術会事務局および（財）日本色彩研究所監修『新版標準土色帖（1990年版）』を使用した。
6. 遺構には次の略号を使用した。  
SD：溝状遺構
7. 火山灰等には次の略称を使用した。  
As-A：1783（天明3）年の浅間山噴火に由来する火山降下物。  
As-B：1108（天仁元）年の浅間山噴火に由来する火山降下物。

# 目次

序

目次・挿図目次・表目次

## 1章 調査に至る経緯

1節 調査に至る経緯	1
2節 調査の方法	1
3節 調査の経過	1

## 2章 遺跡の立地と環境

1節 遺跡の立地と地理的環境	2
2節 遺跡周辺の歴史的環境	2

## 3章 検出された遺構と遺物

1節 基本層序	8
2節 検出された遺構と遺物	8
(1) 1区のA s - B下水田跡と溝状遺構	8
(2) 2区のA s - B下水田跡と溝状遺構	10
(3) 3区のA s - B下水田跡と溝状遺構	12
(4) 4区のA s - B下水田跡と溝状遺構	13

## 4章 まとめ

写真図版

抄録

# 挿図目次

第1図 下和田遺跡周辺遺跡分布図	3
第2図 下和田遺跡立地図	3
第3図 下和田遺跡全体図	5・6
第4図 下和田遺跡1区全体図	7
第5図 下和田遺跡2区全体図	9
第6図 下和田遺跡3区全体図	11
第7図 下和田遺跡4区全体図	12

# 表目次

第1表 下和田遺跡周辺遺跡一覧	4
第2表 1区土器観察表	8
第3表 2区土器観察表	10
第4表 3区土器観察表	12
第5表 4区土器観察表	13

# 1章 調査に至る経緯

## 1節 調査に至る経緯

平成25年10月、高崎市都市集客施設整備室より高崎市教育委員会文化財保護課（以下保護課）に高崎市新体育館建設事業に関わり、高崎駅南の下和田四丁目2番1他の埋蔵文化財の状況について照会があった。保護課は、該当地周辺が区画整理事業や民間開発に伴い発掘調査された真町・栄町・新後閑遺跡に隣接し、近世高崎城下町遺跡やAs-B軽石層により平安時代水田跡が広がる地域であるため、工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。

同年10月25日付けで、都市集客施設整備室より試掘調査依頼書が提出されたのを受けて、保護課は平成26年3月10日～13日に開発予定地の試掘調査を実施し、部分的な攪乱はあるものの浅間B軽石（以下As-Bと呼ぶ）層下の平安時代の水田遺構を確認した。

試掘調査の結果を受けて都市集客施設整備室と協議を行い、遺構が現存する2381㎡について発掘調査を実施することによって一致した。

発掘調査は、翌年26年度の前定となり工事前の3ヶ月を発掘調査作業、27年度整理作業と報告書作成という枠組みで行われた。

## 2節 調査の方法

発掘調査は平成26年4月から6月まで実施した。発掘調査対象地が市街地であり、発掘調査中に生じた排土の仮置き場を確保するため調査対象地を4つに分割し、北側から着手した。

発掘調査は、遺構が確認される深さ（遺構確認面）まで重機を使用して表土除去作業を行った。遺構確認面では人力により遺構平面の検出を行い、遺構の形状や重複関係の確認を行った。遺構確認後は順次人力での掘削を行った。掘削が完了した遺構は光波測距機で平面図・断面図および遺物出土状況の記録図作成をおこない、35mmモノクロ・カラーリバーサルフィルムおよびデジタルカメラによる記録写真撮影を行った。すべての遺構の調査が完了した後に埋戻しを行った。

## 3節 調査の経過

発掘調査は平成26年4月17日から同年6月30日まで行なった。以下に、調査中に記録していた調査日誌より抜粋して調査経過を振り返る。

4月17日	重機による表土掘削作業開始。 As-B軽石層検出。	5月23日	1区・2区・3区の雨水排水。 2区のAs-B軽石の除去作業終了。	
4月23日	仮設事務所・仮設トイレ設置。 発掘道具等の搬入。	5月28日	3区のAs-B軽石の除去作業開始。 2区の全体図・遺構測量と写真撮影。	
4月24日	重機による表土掘削終了。 人力によるAs-B軽石層除去作業開始。	5月29日	2区・3区のセクション図作成。 3区の全体図・遺構測量。	
5月9日	1区よりAs-B軽石の除去作業開始。 畦畔を検出。	6月3日	1区・2区・3区空撮準備。 6月4日	空撮。
5月12日	B.Mより原点の移動。	6月5日	6月10日	大畦の確認のため4区を設定。 重機による表土掘削作業開始。
5月13日	セクション図作成と畦畔確認後写真撮影。 2区のAs-B軽石の除去作業開始。	6月18日	4区のAs-B軽石の除去作業開始。 4区の写真撮影と埋戻し作業。	
5月19日	1区の全体図・遺構測量。	6月19日	4区の全体図・遺構測量。埋戻し作業。	
5月21日	雨のため1区・2区水没。	6月30日	仮設事務所・仮設トイレ撤去。	
5月22日	1区・2区の雨水排水。			

## 2章 遺跡の立地と環境

### 1節 遺跡の立地と地理的環境

下和田遺跡は、高崎市下和田町四丁目に所在し、JR高崎市駅より南500mの市街地に位置している。下和田遺跡より西に約1.2kmのところ流れる烏川が南流し、東に約5kmには井野川が流れている。烏川と井野川に挟まれた礫、砂およびロームを基盤とする高崎台地上に立地している。遺跡周辺は微高地と後背湿地が複雑に入り組む地形を成しており、本遺跡は北西から南東へと帯状に続く後背湿地に立地している。遺跡周辺の現地表面の標高はおよそ94mである。遺跡内でも北西から南東へ現地表面で94.1m～93.5m、As-B層直下で92.4m～92.35mと概ね北西から南東に標高が下がる地形となっている。

### 2節 遺跡周辺の歴史的環境

本遺跡周辺では、数多くの遺跡が発見されている。以下にその一部を取り上げて、本遺跡周辺の歴史的環境を概観する。

本遺跡周辺では厚い泥流層の堆積により旧石器時代の遺跡の検出は知られていない。縄文時代の遺跡も顕著とはいえず、遺物の出土はあっても明確な遺構の検出は少ない。本遺跡周辺では高関堰村遺跡や上中居遺跡群で当該期遺物の出土がある。

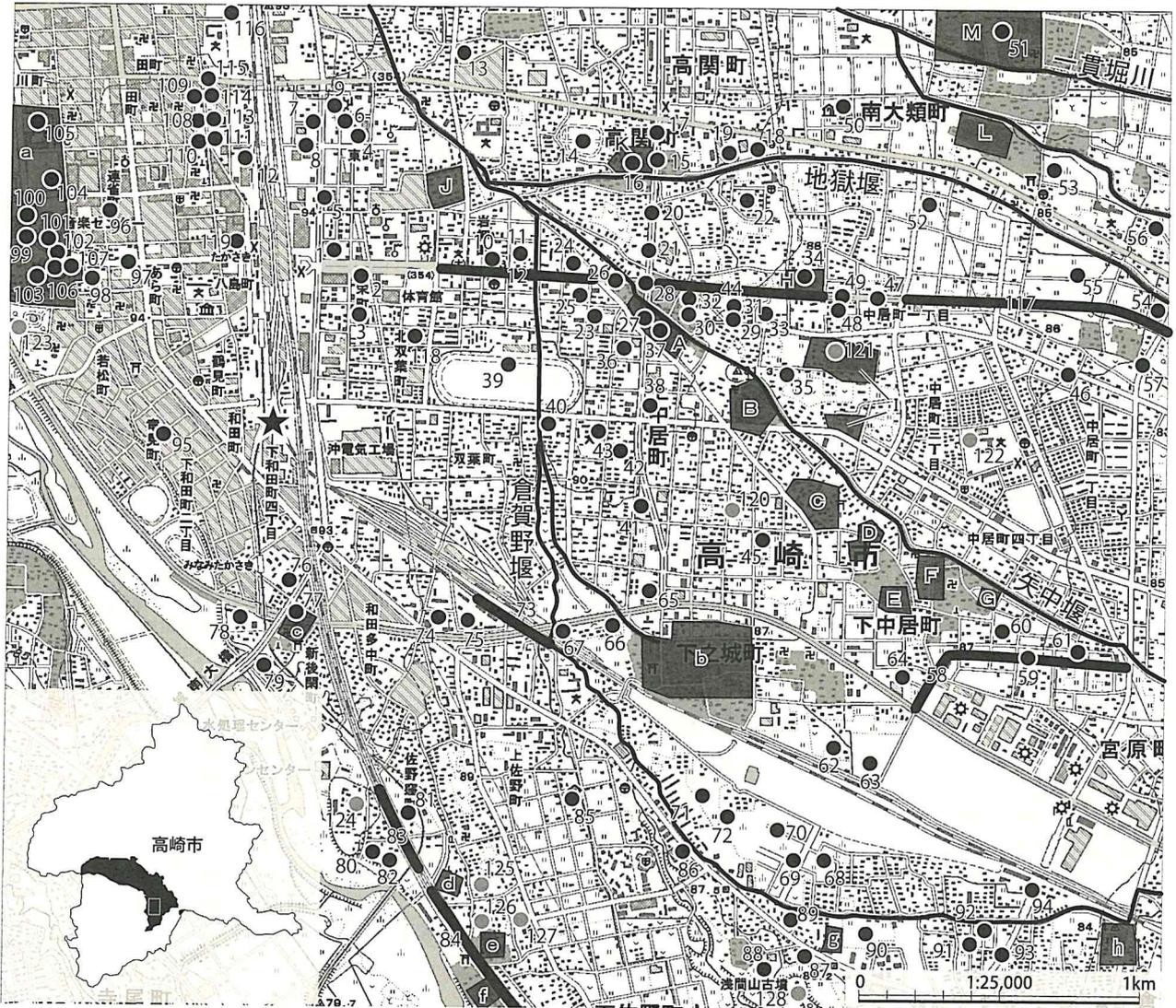
弥生時代になると、本遺跡から北900mに高崎競馬場遺跡があり、遺構の内容は不明ながら中期後半の土器が出土している。また、西400mには竜見町式土器の標識遺跡である竜見町遺跡があり、多くの土器が出土している。北東700mにある東町遺跡では溝状遺構や土坑が、北東1.5kmにある高関東沖・村前遺跡では竪穴建物や環濠と考えられる溝が検出されている。いずれの遺跡でも微高地上に集落を営んでいた様子が窺える。

古墳時代の遺跡では、中居町一丁目遺跡で前期の方形周溝墓や竪穴建物跡が検出され、上中居辻薬師遺跡でも方形周溝墓が知られる。上中居遺跡群では前期の集落と水田跡を検出しており、弥生時代に引き続き微高地上に集落を形成している様子が看取される。また、現在ではすでに消滅しているが越後塚古墳は墳丘長が130m以上とされ、埋葬主体部は横穴式石室と推定される前方後円墳である。

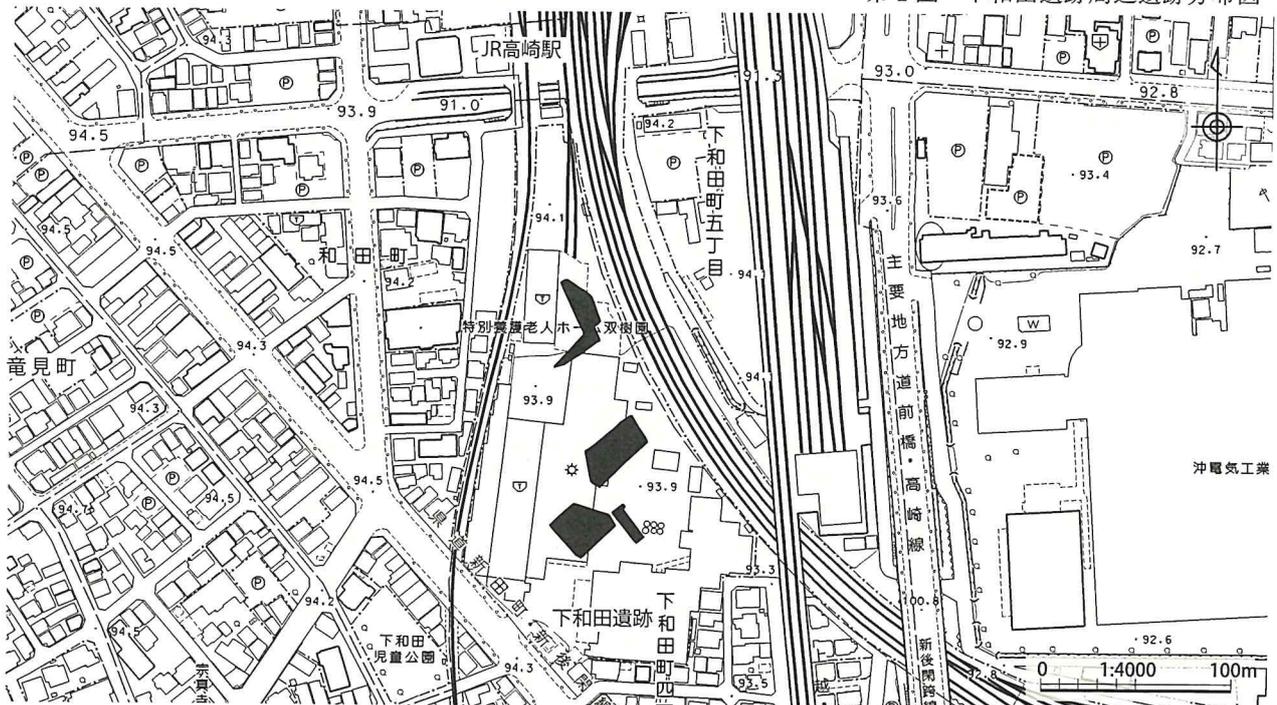
平安時代の遺跡では、中居町一丁目遺跡や柴崎遺跡群、高崎城などで竪穴建物跡を検出しており、当該期集落の展開を確認している。本遺跡周辺では生産遺跡の調査も多い。真町I遺跡では9世紀代と考えられる水田跡が確認されている。天仁元年(1108)年に噴火したとされる浅間山に由来する火山噴出物(浅間B軽石:As-B)は広く飛散しており、この軽石層に覆われた水田跡は高崎市内でも広域で確認されている。本遺跡を含めてその周辺では、栄町遺跡、東町遺跡、岩押町遺跡、岡久保遺跡や高関東沖II・III遺跡、上中居平塚I遺跡、上中居荒神I・II遺跡など枚挙に暇がない。また、本遺跡より南東へと広がる後背湿地帯には、下之城条里や下中居条里など広範囲の条里水田域が想定されており、広い範囲で平安時代の生産域が展開していたことが明らかとなりつつある。

近世の遺跡では、高崎城遺跡や城下町遺跡などが調査されている。また、天明三(1783)年の浅間山噴火に伴う火山噴出物(浅間A軽石:As-A)層を除去した水田跡や畠跡などが東町遺跡、栄町遺跡、岩押町遺跡などでそれぞれ確認されている。

以上のような地理的・歴史的環境の中に本遺跡は位置している。



第1図 下和田遺跡周辺遺跡分布図



第2図 下和田遺跡立地図

2章 遺跡の立地と環境

第1表 下和田遺跡周辺遺跡一覧

No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
	下和田遺跡	51	宿大類町村西遺跡	102	高崎城VI (三ノ丸遺跡)
1	栄町Ⅰ遺跡	52	南大類柳原沖遺跡	103	高崎城VII (三ノ丸遺跡)
2	栄町Ⅱ遺跡	53	南大類村南遺跡	104	高崎城VIII (追手門遺跡)
3	栄町Ⅲ遺跡	54	柴崎遺跡群(Ⅲ) (新堀・根際・吹手西A・富士塚B)	105	高崎城XⅠ (高松第1駐車場遺跡)
4	東町遺跡	55	柴崎遺跡群(Ⅳ)(西沖・柳原・吹手西B)	106	高崎城XⅡ (三ノ丸) 遺跡
5	東町Ⅱ遺跡	56	柴崎遺跡群(Ⅴ) (殿谷戸・旭・富士塚・隼人・吹手・峰岸)	107	高崎城XⅢ (三ノ丸) 遺跡
6	東町Ⅲ遺跡	57	西浦・吹手西遺跡(西浦1・吹手西1)	108	真町Ⅰ遺跡
7	東町Ⅳ遺跡	58	下中居条里遺跡(八幡前1・2、村西2)	109	真町Ⅱ遺跡
8	東町Ⅴ遺跡	59	下中居条里Ⅱ遺跡(八幡前3)	110	真町Ⅲ遺跡
9	東町Ⅵ遺跡	60	下中居条里Ⅲ遺跡	111	旭町Ⅰ遺跡
10	岩押町Ⅰ遺跡	61	矢中村西Ⅰ遺跡	112	旭町Ⅱ遺跡
11	岩押町Ⅱ遺跡	62	下之城村東遺跡	113	旭町Ⅲ遺跡
12	岩押町Ⅲ遺跡	63	下之城村東遺跡2	114	旭町Ⅳ遺跡
13	江木西前沖遺跡	64	下之城・村東遺跡3	115	弓町Ⅰ遺跡
14	高関高根遺跡	65	下之城村北遺跡	116	江木諏訪西遺跡
15	高関堰村遺跡	66	下之城村西遺跡	117	柴崎遺跡群、南大類遺跡群 (柴崎富士塚前・東原・新堀 ・西浦・西沖・南大類柳原)
16	高関・堰村遺跡2	67	下之城村前Ⅱ遺跡		
17	高関東沖・村前遺跡	68	下之城村前Ⅲ遺跡		
18	高関東沖Ⅱ遺跡	69	下之城村前Ⅳ遺跡		
19	高関東沖Ⅲ遺跡	70	下之城村前Ⅴ遺跡		
20	高関村前遺跡	71	下之城仲沖遺跡	118	北双葉町遺跡
21	高関村前Ⅱ遺跡	72	下之城仲沖Ⅱ遺跡	119	八島町遺跡
22	岡久保遺跡	73	双葉町Ⅰ遺跡	120	越後塚古墳(佐野村74)
23	上中居平塚Ⅰ遺跡	74	和田多中遺跡	121	稻荷塚古墳(佐野村71)
24	上中居平塚Ⅱ遺跡	75	上佐野樋越遺跡	122	念仏塚古墳(佐野村69)
25	上中居平塚遺跡3	76	新後閑遺跡	123	頼政神社古墳
26	上中居早道場遺跡	77	新後閑遺跡2	124	御堂塚古墳(佐野村10)
27	上中居辻薬師遺跡	78	城南小学校庭弥生遺跡(新後閑寺廻遺跡)	125	漆山古墳(佐野村27)
28	上中居辻薬師Ⅱ遺跡	79	新後閑寺廻遺跡(2次調査)	126	蔵王塚古墳(佐野村65)
29	上中居辻薬師遺跡4次調査	80	上佐野船橋遺跡	127	長者屋敷天王山古墳(佐野村34)
30	上中居辻薬師遺跡5次調査	81	上佐野船橋Ⅱ遺跡	128	浅間山古墳(倉賀野1)
31	上中居辻薬師遺跡6次調査	82	上佐野船橋Ⅲ遺跡		
32	上中居辻薬師遺跡7次調査	83	船橋遺跡	A	反町城
33	上中居岡西遺跡2次調査	84	下佐野遺跡Ⅰ地区	B	新堀の砦(中居の砦)
34	上中居岡東遺跡2次調査	85	下佐野観音寺遺跡	C	下中居新井屋敷
35	上中居宇名室遺跡	86	倉賀野西上正六遺跡	D	高尾屋敷(くぐり窓)
36	上中居西屋敷遺跡	87	倉賀野東上正六遺跡	E	下中居福田屋敷
37	上中居西屋敷Ⅱ遺跡	88	倉賀野東上正六遺跡(2次調査)	F	下中居佐藤屋敷
38	上中居西屋敷Ⅲ遺跡	89	倉賀野上新堀Ⅰ遺跡	G	道場屋敷
39	高崎競馬場遺跡	90	倉賀野下新堀遺跡	H	丸茂屋敷
40	高崎競馬場遺跡(1次調査)	91	倉賀野条里Ⅰ遺跡 (倉賀野上稲荷・三坊木)	I	宇名室環濠遺構
41	高崎競馬場遺跡(2次調査)	92	倉賀野条里Ⅱ遺跡 (倉賀野上稲荷2・三坊木2)	J	岡田屋敷
42	上中居荒神Ⅰ遺跡	93	倉賀野条里Ⅲ遺跡(倉賀野上稲荷3)	K	高関屋敷(角田屋敷)
43	上中居荒神Ⅱ遺跡	94	倉賀野条里Ⅳ遺跡(倉賀野統端)	L	大類館
44	上中居遺跡群(辻薬師3次岡西、岡東)	95	竜見町遺跡	M	大累乗
45	上中居高薬師遺跡	96	桧物町遺跡	a	和田城(近世高崎城)
46	矢中遺跡群(中居町二丁目遺跡)	97	高崎城下町遺跡	b	和田下之城
47	中居一丁目遺跡	98	城下町Ⅱ遺跡	c	新後閑屋敷
48	中居一丁目遺跡2	99	高崎城Ⅲ(坪ノ枳形遺跡)	d	佐野屋敷
49	中居一丁目遺跡3	100	高崎城Ⅳ(坪ノ枳形及び三ノ丸遺跡)	e	堀口屋敷
50	南大類中通遺跡	101	高崎城Ⅴ(東門及び三ノ丸遺跡)	f	清水屋敷
				g	倉賀野屋敷
				h	永泉寺の砦

### 3章 検出された遺構と遺物

#### 1節 基本土層

調査地にはかつて工場が建てられており、調査区内に近現代のカクランが確認されているが、浅間B軽石（以下、「As - B軽石」）層をはじめ遺構面までの堆積層および遺構面以下の土層は良好に残存している。

現地表面から約85cm（1～3層）までがカクランを含む盛土層である。4層以下がカクランを受けていない堆積土層である。4・5層は浅間A軽石（以下As - Aと呼ぶ）混土層である。4層は黒褐色でしまりは強く粘性も強い。5層は灰黄褐色で砂粒を含みしまりは強く粘性も強い。6・7層はAs - B混土層である。6層はにぶい黄褐色を呈しており、しまりは強く粘性も強い。7層は黒褐色でAs - B軽石を主体とする。場所によっては鉄分を含む。8層はAs - B軽石一次堆積層で、平均的な堆積厚は10cm前後である。9層がAs - B降下前の水田耕作土である。10層は黒色シルト層である。

#### 2節 検出された遺構と遺物

##### (1) 1区のAs - B軽石層下水田跡と溝状遺構

As - B層直下より7枚の水田跡とこれに伴う畦畔状遺構6条、溝状遺構1条を検出した。いずれの水田面も四辺すべてを確認しておらず1枚あたりの面積は不明である。北端から南端にかけて緩やかな傾斜を持ち、比高差は約10cmを測る。

1号畦畔 調査区北端で検出された南北に走向する畦畔である。南端で東西に走向する2号畦畔と交差する。検出長は5mであり、畦畔の幅は上端で約0.5m、下端で約1.2mである。2号畦畔との交点での比高差は3cmを測る。畦畔主軸はN - 5° - Eである。2号畦畔との交点から羽釜の破片が出土した。

2号畦畔 調査区の北端よりで検出された東西に走向する畦畔である。畦畔の中央部やや西よりで1号畦畔と交差する。検出長は11.5mであり、畦畔の幅は上端で0.6m、下端で1.4mである。1号畦畔との交点での比高差は3cmを測る。畦畔主軸はN - 91° - Eでほぼ東西である。

3号畦畔 調査区の中央付近で検出された南北に走向する畦畔である。南端で4号畦畔と交差し、中央部付近でSD - 1と重複する。SD - 1の方が新しい。検出長は20.5mであり、畦畔の幅は上端で0.6m、下端で1.2mである。4号畦畔との交点での比高差は5cmを測る。畦畔主軸は4号畦畔との交点近くではN - 5° - E、北よりではN - 11° - Eと東にふれる。

4号畦畔 調査区の南端付近で検出された東西に走向する畦畔である。畦畔の東端付近で3号畦畔と、中央部やや西よりで5号畦畔と交差する。検出長は8.7mであり、畦畔の幅は上端で0.6cm、下端で1.2mである。3号畦畔と5号畦畔との交点での比高差は共に5cmを測る。畦畔主軸はN - 90° - Eで東西である。

5号畦畔 調査区の南端付近で検出された南北に走向する畦畔である。4号畦畔の中央部やや西よりで交差する。検出長は5.5mであり、畦畔の幅は上端で0.3m、下端で0.8mである。4号畦畔との交点での比高差は5cmを測る。畦畔主軸はN - 5° - Eである。

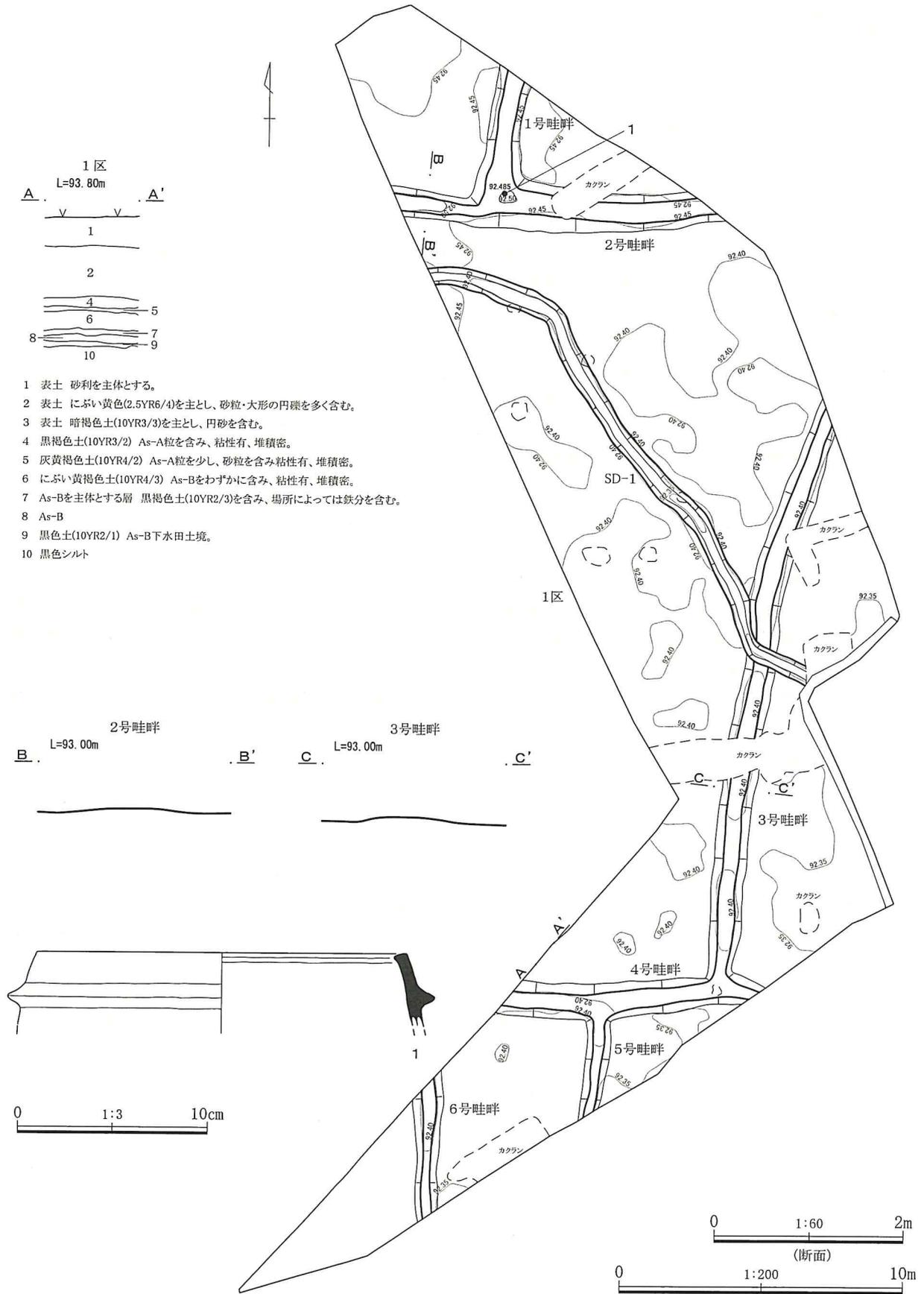
6号畦畔 調査区の南端付近で検出された南北に走向する畦畔である。調査区外であるが4号畦畔と交差する可能性が考えられる。検出長は4.7mであり、畦畔の幅は上端で0.5m、下端で1.2mである。4号畦畔付近での比高差は5cmを測る。畦畔主軸はN - 3° - Eでほぼ南北である。

SD - 1 調査区の中央部付近で検出された北西から南東にかけて「S字」状に走向ものである。南東端付近で近で3号畦畔を切っている。覆土は黒褐色を呈し、As - B軽石混土である。検出長は20.5m、幅は0.6～0.8mである。水田面からの深さは5cmを測る。主軸方位は北西端でN - 71° - W、中央部でN - 31° - W、南東端でN - 115° - Eである。本遺構からの遺物の出土はない。

##### 1区の遺物観察表

( ) : 復元値、[ ] : 残存値

番号	器種	法量(cm)	①残存 ②色調 ③胎土、焼成の特徴	成・整形技法の特徴	出土位置
1	搦鉢 (破片)	口径 (19.5) 底径 - 器高 [3.9]	①口縁部破片 ②5YR 6/6 橙色	外面 胴部篋削と見られるが不明瞭、口縁横撫。 内面 胴部篋撫、口縁横撫。 鏝部断面三角形。	2cm



第4図 下和田遺跡 1区 平面図・断面図・出土遺物



## (4) 4区のAs-B軽石層下水田跡と溝状遺構

As-B軽石層直下より2枚の水田跡とこれに伴う畦畔状遺構2条を検出した。いずれの水田面も四辺すべてを確認しておらず1枚あたりの面積は不明である。ほぼ平坦であり、比高差はほとんどない。

1号畦畔 調査区の西端付近から検出された南北に走向する畦畔である。検出長は5mであり、畦畔の幅は上端で約0.6m、下端で約1.4mである。比高差は2cmを測る。畦畔主軸はN-2°-Eでほぼ南北である。

2号畦畔 調査区の南端付近から検出された東西に走向する畦畔である。検出長は1.6mであり、畦畔の幅は上端で約0.5m、下端で約1mである。比高差は2cmを測る。畦畔主軸はN-88°-Eでほぼ東西である。

## 4区土器観察表

( ): 復元値、[ ]: 残存値

番号	器種	法量(cm)	①残存 ②色調 ③胎土、焼成の特徴	成・整形技法の特徴	出土位置
1	須恵器 埴	口径 - 底径 7.0 器高 [1.5]	①底部破片 ②10YR 8/2 灰白色	外面 底部回転糸切り。高台部台形 内面 底部回転轆轤整形。	覆土

## 4章 まとめ

今回の発掘調査で確認された15条のAs-B軽石下水田跡の畦畔は、市内で検出されるAs-B下水田跡と同様に低く潰れた畦畔であった。(第2表参照) 検出された畦畔は方位を意識した規則的なものであった。また、水田跡をみると鋤痕や足跡等は確認されなかった。周辺遺跡からも北双葉町遺跡、八島町遺跡、真町I遺跡、旭町I・II・III遺跡、東町遺跡、栄町遺跡等でAs-B軽石下水田跡が確認されているが、いずれも条理を意識したような形で検出されている。このことからJR高崎駅周辺が生産地域として展開していたものと考えられる。

検出された4条の溝状遺構は、掘込も浅いもので形状は皿状を呈していた。いずれも近世のものと考えられる。

## 下和田遺跡畦畔

## 1区畦畔

No.	確認長	上端幅	下端幅	高さ	方位	
1	5m	0.5m	1.2m	3cm	N-5°-E	
2	12m	0.6m	1.4m	3cm	N-91°-E	
3	21m	0.6m	1.2m	3cm	N-5°-E	N-11°-E
4	8.7m	0.6m	1.2m	5cm	N-90°-E	
5	5.5m	0.3m	0.8m	5cm	N-5°-E	
6	4.7m	0.5m	1.2m	5cm	N-3°-W	

## 2区畦畔

No.	確認長	上端幅	下端幅	高さ	方位	
1	1.6m	0.4m	0.7m	2cm	N-85°-E	
2	19m	0.7m	1.4m	2cm	N-2°-W	
3	11m	0.5m	0.9m	2cm	N-3°-E	
4	25m	0.9m	1.5m	5cm	N-85°-E	N-90°-E
5	15m	0.5m	0.7m	2cm	N-6°-W	

## 3区畦畔

No.	確認長	上端幅	下端幅	高さ	方位
1	12m	0.6m	1.2m	5cm	N-2°-W
2	11m	0.7m	1.4m	5cm	N-10°-W
水口	北側	0.5m	1m	/	/
	南側	0.5m	1m		

## 4区畦畔

No.	確認長	上端幅	下端幅	高さ	方位
1	5m	0.6m	1.4m	2cm	N-2°-W
2	1.6m	0.5m	1m	2cm	N-88°-E

3章 検出された遺構と遺物

(3) 3区のAs-B軽石層下水田跡と溝状遺構

工場建設時に取り壊し時のカクランが著しく、3区全体の1/3程およんでいる。As-B軽石層直下より2枚の水田跡とこれに伴う畦畔状遺構2条、溝状遺構1条を検出した。いずれの水田面も四辺すべてを確認しておらず1枚あたりの面積は不明である。南端から北端にかけて緩やかな傾斜を持ち、比高差は約5cmを測る。

1号畦畔 調査区の中央部やや東よりから検出された南北に走向する畦畔である。検出された畦畔の中央部から水口が検出された。検出長は12mであり、畦畔の幅は上端で約0.6m、下端で約1.2mである。比高差は5cmを測る。畦畔主軸はN-2°-Wでほぼ南北である。北側水口先端の幅は上端で0.5m、下端で1m、南側水口先端の幅は上端で0.5m、下端で1mを測り、水口間の幅は0.4mと狭い。

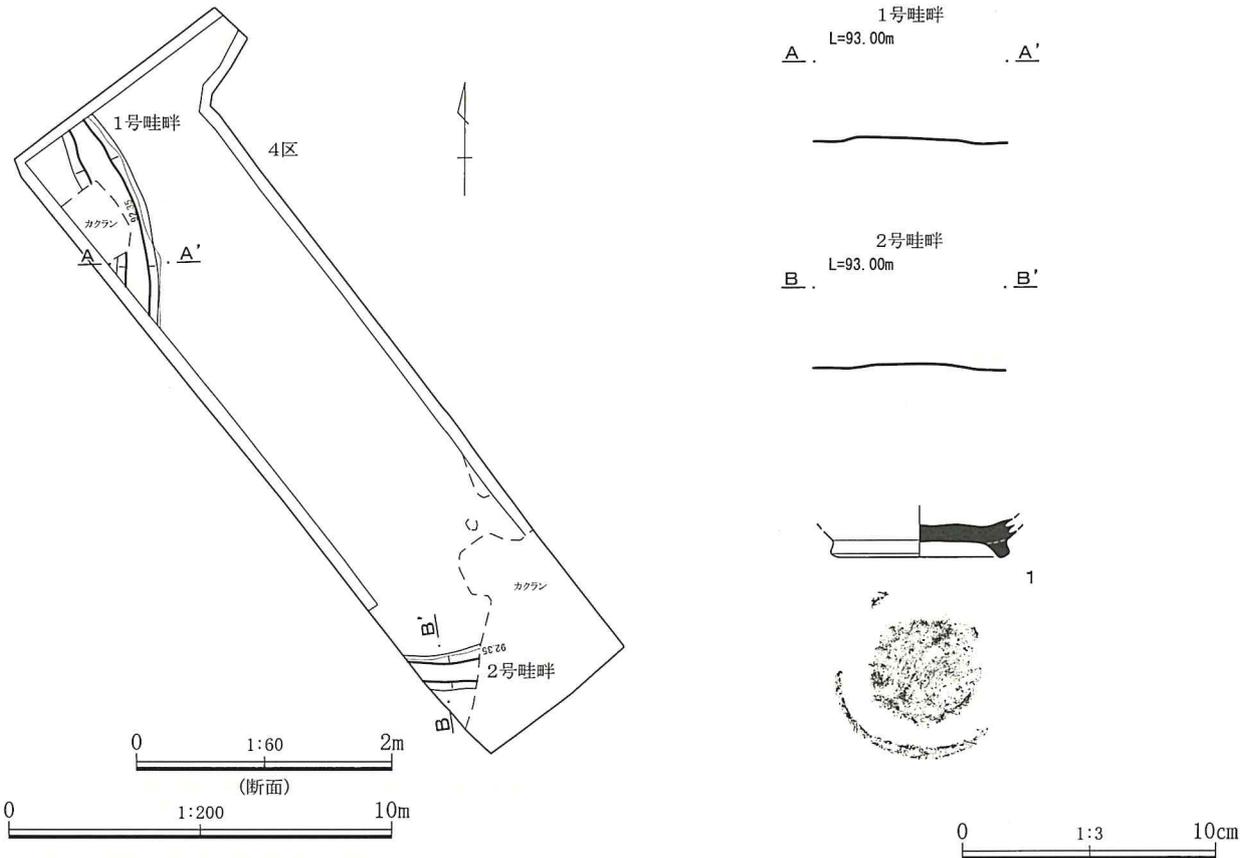
2号畦畔 調査区の中央部やや西よりから検出された南北に走向する畦畔である。北端でやや西に傾斜するかのようにより幅が広がる。検出長は11.4mであり、畦畔の幅は上端で約0.7m、下端で約1.4mである。比高差は5cmを測る。畦畔主軸はN-10°-Eである。

SD-1 調査区の東端付近で検出された南北にかけて走向のものである。覆土は黒褐色を呈し、As-B軽石混土である。検出長は11.3m、幅は0.3mである。水田面からの深さは5cmを測る。主軸方位はN-13°-Eである。軟質陶器製の焙烙が北端近くから出土した。

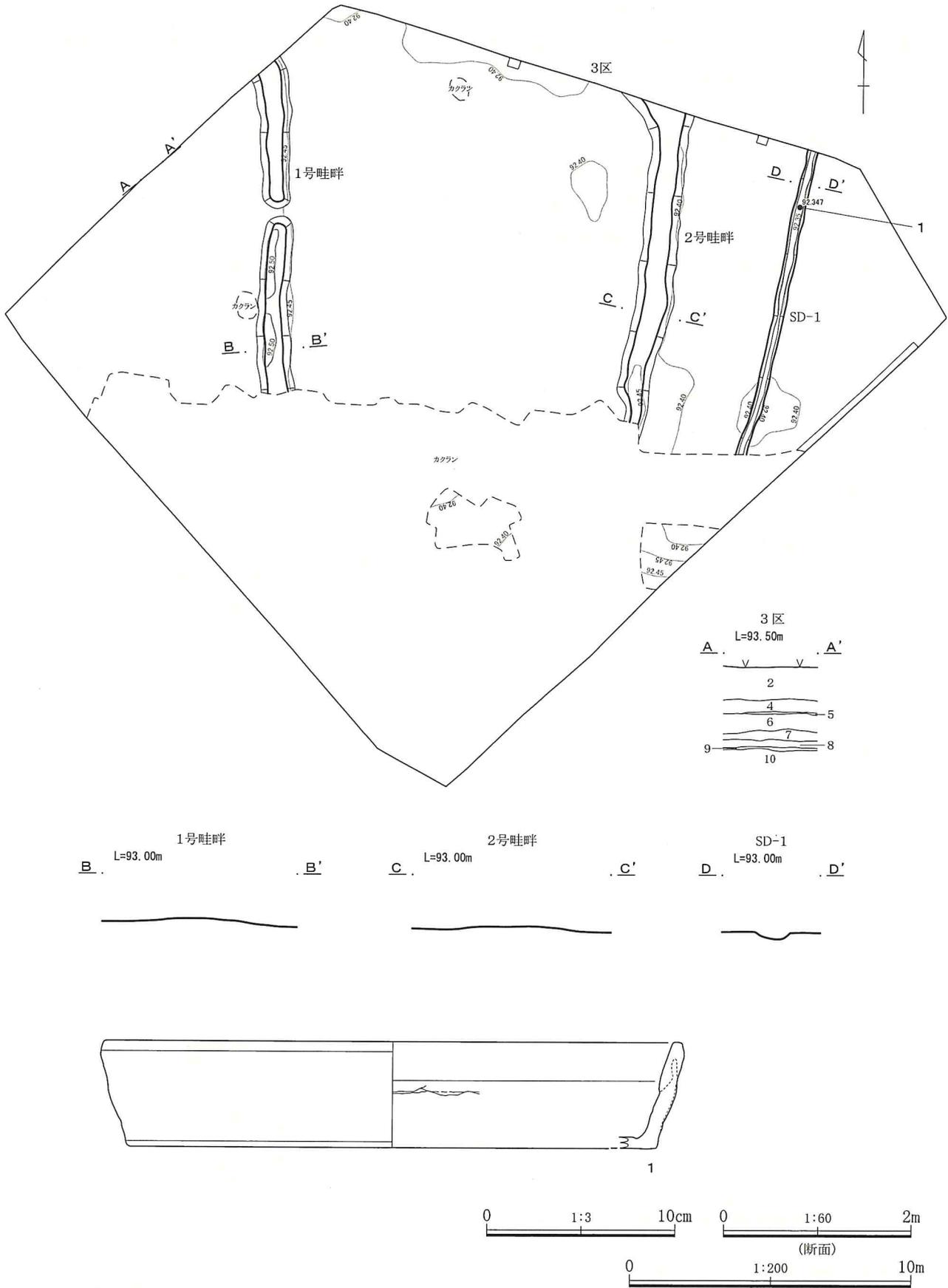
3区土器観察表

SD-1 ( ): 復元値、[ ] : 残存値

番号	器種	法量(cm)	①残存 ②色調 ③胎土、焼成の特徴	成・整形技法の特徴	出土位置
1	軟質陶器 焙烙	口径 (30.8) 底径 (28.1) 器高 5.7	①破片 ②外: 7.5Y 8/2 灰白色 内: 7.5Y 6/1 灰色	外面 底部篋調整、胴部轆轤整形、口縁横撫。 内面 底部篋調整、胴部轆轤整形後篋撫、口縁横撫。 平底。胴部中位で膨らみ直立する。 口縁短く内傾、口唇平坦。輪積痕あり。酸化気味。	2cm



第7図 下和田遺跡 4区 平面図・断面図・出土遺物



第6図 下和田遺跡 3区 平面図・断面図・出土遺物

### 3章 検出された遺構と遺物

#### (2) 2区のAs-B軽石層下水田跡と溝状遺構

As-B軽石層直下より6枚の水田跡とこれに伴う畦畔状遺構5条、溝状遺構2条を検出した。いずれの水田面も四辺すべてを確認しておらず1枚あたりの面積は不明である。1区とは逆に南端と北端にかけて緩やかな傾斜を持ち、比高差は約5cmを測る。

1号畦畔 調査区の北端付近から検出された東西に走向する畦畔である。北端で南北に走向する2号畦畔と交差する。検出長は1.6mであり、畦畔の幅は上端で約0.4m、下端で約0.7mである。2号畦畔との交点での比高差は2cmを測る。畦畔主軸はN-85°-Eである。

2号畦畔 調査区の北端付近から検出された南北に走向する畦畔である。北端で東西に走向する1号畦畔と南端で4号畦畔と交差する。検出された畦畔中央部付近でSD-1と重複し、本遺構の方が古いものである。検出長は19mであり、畦畔の幅は上端で約0.7m、下端で約1.4mである。1号畦畔との交点での比高差は2cmを測る。畦畔主軸はN-2°-Wでほぼ南北である。

3号畦畔 調査区の北端中央部付近から検出された南北に走向する畦畔である。調査区中央部やや西よりで東西に走向する4号畦畔と交差する。北端付近でSD-1と重複し、本遺構の方が古いものである。検出長は11mであり、畦畔の幅は上端で約0.5m、下端で約0.9mである。4号畦畔との交点での比高差は2cmを測る。畦畔主軸はN-3°-Wでほぼ南北である。

4号畦畔 調査区の中央部付近から検出された東西に走向する畦畔である。東端で南北に走向する2号畦畔と中央部やや西よりで3号畦畔と交差する。検出長は24.7mであり、畦畔の幅は上端で約0.9m、下端で約1.5mである。2号畦畔との交点での比高差は5cmを測る。畦畔主軸は西端でN-85°-E、東端でN-90°-Eで緩やかに曲がるがほぼ東西である。

5号畦畔 調査区中央部やや西の付近から検出された南北に走向する畦畔である。中央部やや西よりで東西に走向する4号畦畔と交差する。南端でSD-2と重複するものと考えられる。検出長は15mであり、畦畔の幅は上端で約0.5m、下端で約0.7mである。4号畦畔との交点での比高差は2cmを測る。畦畔主軸はN-6°-Wでほぼ南北である。

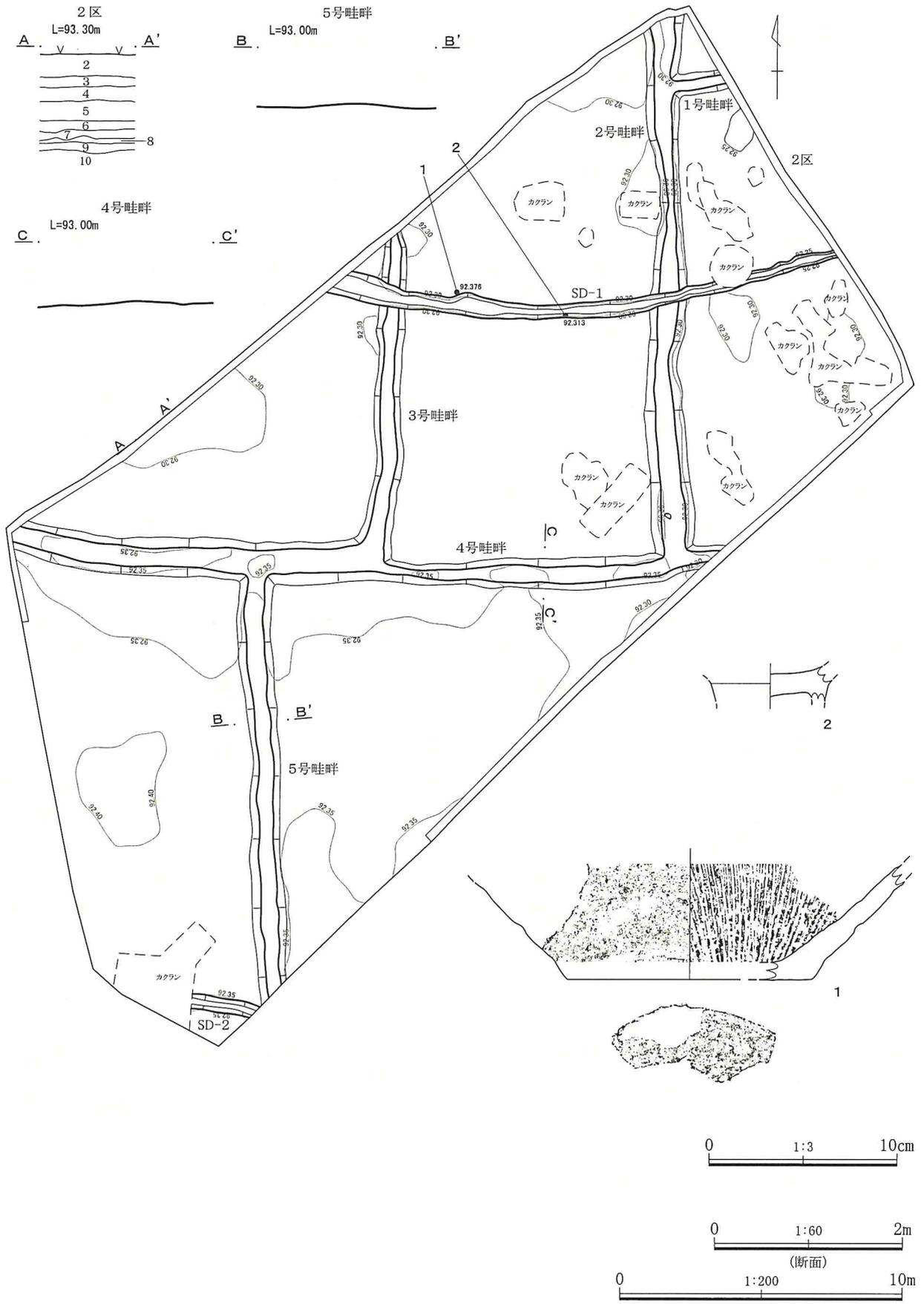
SD-1 調査区の中央部やや北より付近で検出された東西にかけて「弓」状に走向するものである。2号畦畔の中央部を切り、北西端付近で3号畦畔を切っている。覆土は黒褐色を呈し、As-B軽石混土である。検出長は18m、幅は0.3m～1mである。水田面からの深さは5cmを測る。主軸方位は西端でN-92°-W、東端でN-85°-Eである。遺物は中央部と中央部やや西よりから出土した。

SD-2 調査区の南端付近で検出された東西にかけて走向するものである。5号畦畔を南端で切っていると考えられる。覆土は黒褐色を呈し、As-B軽石混土である。検出長は2.5m、幅は0.6mである。水田面からの深さは5cmを測る。主軸方位はN-110°-Eである。本遺構からの遺物の出土はない。

#### 2区土器観察表

SD-1 ( ): 復元値、[ ] : 残存値

番号	器種	法量(cm)	①残存 ②色調 ③胎土、焼成の特徴	成・整形技法の特徴	出土位置
1	播鉢 (破片)	口径 - 底径 (13.0) 器高 [6.15]	①底～胴部破片 ②5YR 8/4 淡橙色	外面 底部斲削、胴部斲削、指撫。 内面 斲削。 平底 胴部「ハ」の字に大きく開く。小石を多く含む。	14cm
2	陶器 (常滑?)	口径 - 底径 - 器高 [1.9]	①破片 ②外: 7.5YR 4/6 褐色 内: N 灰白色		8cm



第5図 下和田遺跡 2区 平面図・断面図・出土遺物



下和田遺跡全景空撮

PL2



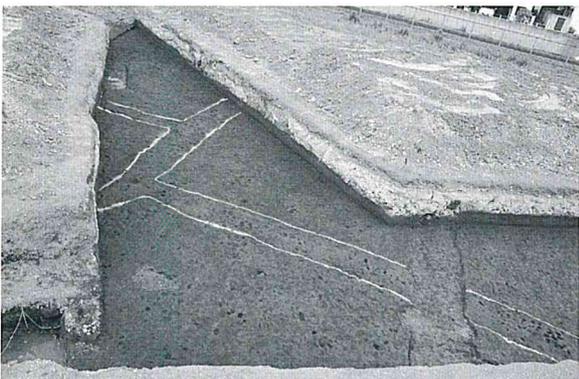
1区全景空撮



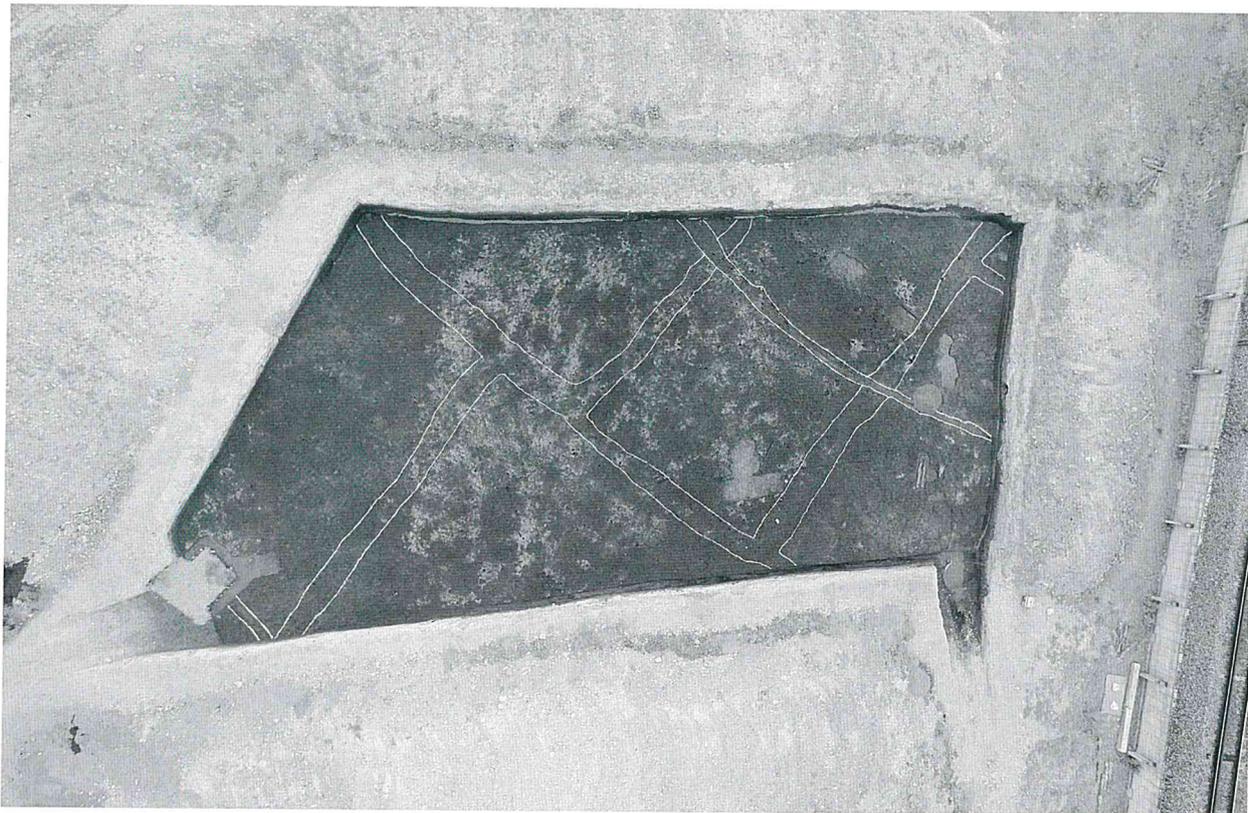
1区北側畦畔とSD-1



1区中央畦畔



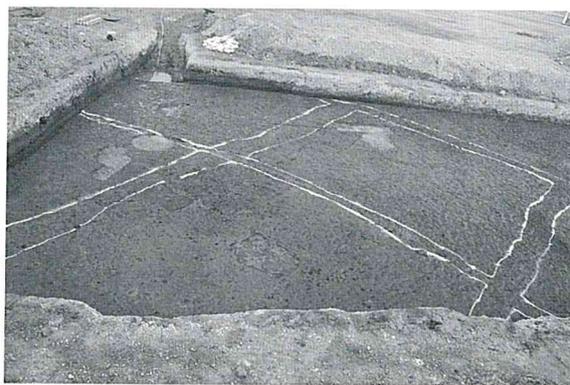
1区南側畦畔



2区全景空撮



2区作業風景



2区東側畦畔



2区西側畦畔



2区西から



3区全景空撮



3区全景



3区1号側畦畔と水口



3区2号側畦畔



3区SD-1



4区全景

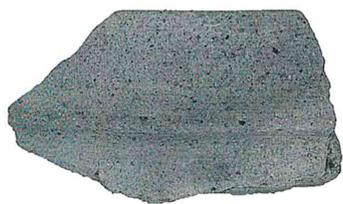


4区1号哇畔



4区2号哇畔

PL6



1区-1



2区-1



2区-2



3区-1



4区-1

## 抄 録

ふりがな	しもわだいせき							
書名	下和田遺跡							
副書名	高崎市新体育館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	高崎市文化財調査報告							
シリーズ番号	第360集							
編著者名	矢島 浩							
編集機関	高崎市教育委員会							
編集機関所在地	〒370-8501 群馬県高崎市高松町35番地1							
発行年月日	2016年 3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しもわだいせき 下和田遺跡	ぐんまけんたかさきししもわだ 群馬県高崎市下和田 まち ちやうめ 町4丁目	102020	592	139° 0' 46"	36° 18' 58"	2015.4.17 } 2015.6.30	1,500㎡	高崎市新 体育館建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
下和田遺跡	水田跡	平安時代 中～近世	浅間B軽石層下水田跡 近世の溝	須恵器・陶器・ 播鉢	

### <参考文献>

- |               |      |                 |                          |
|---------------|------|-----------------|--------------------------|
| 高崎市教育委員会      | 1995 | 『東町Ⅳ遺跡』         | 高崎市文化財調査報告書 第138集        |
| 高崎市教育委員会      | 1999 | 『真町Ⅱ遺跡』         | 高崎市文化財調査報告書第 163集        |
| 高崎市教育委員会      | 2001 | 『旭町Ⅲ遺跡』         | 高崎市文化財調査報告書第 176集        |
| 高崎市教育委員会      | 2002 | 『真町Ⅲ・旭町Ⅳ・弓町Ⅰ遺跡』 | 高崎市文化財調査報告書 第180集        |
| 高崎市教育委員会      | 2003 | 『栄町Ⅲ遺跡』         | 高崎市文化財調査報告書第187集         |
| 群馬県埋蔵文化財調査事業団 | 2011 | 『栄町Ⅲ遺跡』         | 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第520集 |
| 高崎市教育委員会      | 2012 | 『北双葉町遺跡』        | 高崎市文化財調査報告書第 295集        |
| 高崎市教育委員会      | 2015 | 『八島町遺跡』         | 高崎市文化財調査報告書第 347集        |

---

---

高崎市文化財調査報告書第 360 集

## 下和田遺跡

2016 年 3 月 18 日印刷  
2016 年 3 月 25 日発行

編集・発行／群馬県高崎市教育委員会  
群馬県高崎市高松町 35 番の 1  
電話 027 (321) 1111 (代表)  
印刷／上武印刷株式会社

---

---